

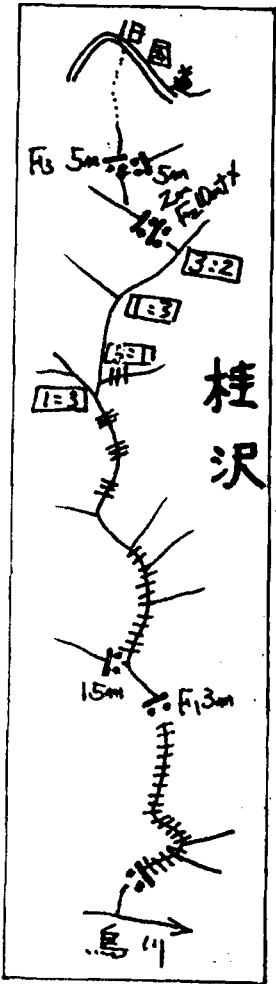
に出た。と、F, 5m. なんなく下る。ここには左岸より5m滝となって沢が合流していた。

このあとカーブをえがいてナメ状に落ちる10m滝があるが、それを過ぎると沢は平凡となり、いくつもの支沢が合わさるようになる。

沢の左手に炭焼き釜跡を見て進むと、ナメが断続的に出てくる。スケールは大きくないが、なかなか感じのよいナメである。このあたりで空模様があやしくなってきたので、ぐんぐんスピードを上げて下る。小滝を過ぎると、烏川本流は目の前であった。

(記)

【タイム】 下降開始(12:40)→烏川本流(13:30)

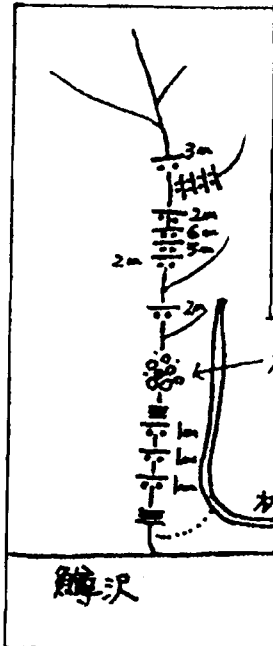


砂子沢

1985年10月5日

L.P.A.

鱒沢林道ゲート手前の広場に車をデポし、林道を歩くこと30分で砂子沢出合である。なお林道ゲートの所は、農道改良工事が進められており、林道上にかなりの落石が生じていた。



さて、遡行開始である。沢幅1~2mと、開始早々藪との戦いである。

滝は1m程度のもので単発であり、半分あきらめ気分で進んでゆくと、突然目の前がひらけて、大小の岩が沢を埋めつくしていた。なんのことはない、林道工事の残土を沢に捨てたものである。

余談であるが、山の中とはいえ、同じ林業技術者として残念である。少し離れた所には、残土捨て場としても適地があったと思えるのだが。

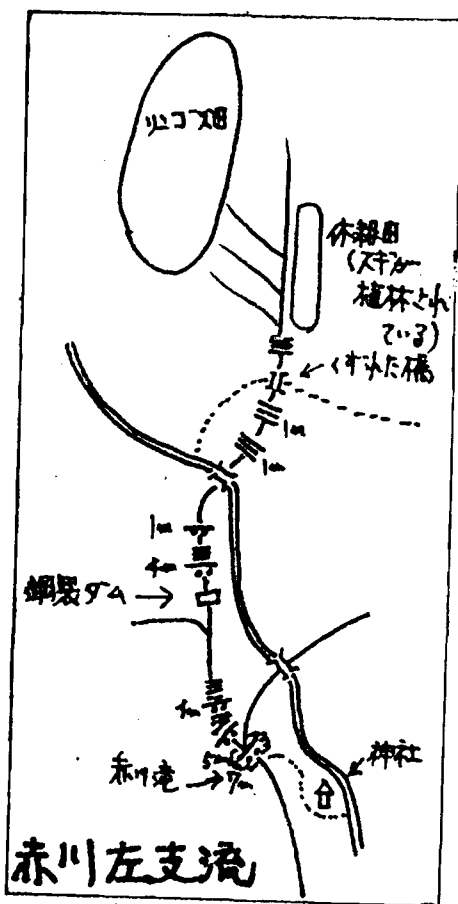
さらに先に進むこと30分、2段7m、6mと、この沢最大の滝が出現した。左岸を木の枝を使って登る。さらにその上に2mの滝が続いた。この先、沢

の傾斜勾配も急になり、水の流れも細くなってきた。

左岸より、水量では本流より多いと思われる支沢が数段もの滝を連ねて落ちている。どちらが本流なのか、地図で現在位置を確認し、こちらが本流と確認して先に進む。途中3mの滝が出てきたが、水も濁れ源頭部となったあたりで遡行終了として引き返す。

(記・)

【タイム】 林道ゲート(13:30)→砂子沢出合(14:00)→遡行終了(14:50)



赤川左支流

1985年10月26日

L: ...

山々の木々の葉もこの時期になると色あでやかになり、反面水の冷たさは身にこたえてくる。本日の調査をもって1985年の福島登高会の沢登りは、終了である。

赤川左支流は、赤川滝が起点となる。市道より滝まで道がついており、手前には神社がある。

滝口まで降りていき、若林さんが写真におさめて、再度市道に戻る。遡行は赤川滝の上から開始。

滝口からはナメの連続であった。このあと沢は市道に並行している。周囲は杉の造林地で明るい。途中、4mの滝があった。

市道と分かれた途端、沢幅は1~1.5m。そしてものすごい藪である。藪との戦いを始めて20分、沢の流れも細くなってきたので終

了とする。右岸の支沢を登っていくとリンゴ畑に飛び出した。(記・ハ)

【タイム】 赤川滝(14:00)→終了(14:45)